

604 新代議士並びに博士祝賀会

〔「法学新報」第30巻8（344）号 大正9年8月1日〕

○新代議士並博士祝賀会 中央大学に於ては出身者並講師中より三十九名の新代議士を出し五名の博士を増したれば之を祝する為め中央大学学員会並学友会共同して去月四日午後一時より大講堂に於て祝賀会を開催したるか当日参集せる来賓学員学生

の数は無慮二千に上り定刻既にさしもに広き大講堂も立錐の余地なく実に未曾有の盛観を極む今其概況を報道せんに学友会委員諸氏は午前中より諸般の準備に従事し時計の一時を報するを待ちつつありしか定刻先つ余興を開催す第一に「コールド、フールド、クラウンド」(音楽部有志一同)の合奏ありて喝采を博し次て「ドナウ河」(マンドリン部館山氏富田君)は満堂の聴衆を傾聴せしめ次に貞山の講談「両国の雪」は最も一同を感歎せしむ尚ほ「スキート、ホーム」(音楽部館山氏志村君の独唱)、榎本芝水の薩摩琵琶川中島、「ペーターベン、ミニニューエツト」(ヴァイオリン部館山氏岩田君)の合奏、館山氏の「ヴァイオリン」熱情の歌等一として可ならざる無く斯くて来賓並學員諸氏も陸續出席せられたれは余興は之を中止して暫時休憩し改めて来賓諸氏の著席を請ひ式に移る學員会理事河野秀男氏起て先つ開会を宣し当日の来賓たる馬場、林、二上、堀江並飯島の五博士を始め代議士三十九氏の姓名を呼上げて降壇するや学友会代表者として経済学部三年級東一雄氏の祝辞あり曰く「来賓諸先生並に満堂の諸君、我大学生れてより此方星霜を閲すること茲に三十有六年卒業生を出すこと一万に上り其総ての諸先輩は社会各方面に於て重要な地位を占めて邦家のために貢献せられつつあるのてあつて誠に偉觀を呈して居ります然る所先般我の恩師たる馬場、二上、飯島三先生の外本大学出身にして而も亦我の恩師たる林、堀江の両先生は幾多篤学の人士中より選拔せられて法学博士の学位を享けられ学界に大なる權威を増加せられました又本大学學員たる方々の中で先般の総

選挙に依り三十有九名の多数か国民の選良として代議士として当選せられ国利民福を其双肩に荷はれ議政壇上緯を画し経を立てらるるの雄図は実に是れ男子の面目之に過くるものなきことと信します想ふに我法制経済の学界は遺憾ながら未だ世界に誇るに足るものなく内治外交のこと大に憂ふべきもの鮮からず又国民の思想は動揺して已まざる有様であります要するに國家の前途は多事多端であると思はれるのであります此秋に当り質実剛健の学風を主張し或は之に同化せられつつある我學員諸先輩中より前述致しましたる如き五博士、三十九代議士を輩出ししましたことは本大学に対し錦上更に光彩を添へるの所以て本学の為め慶賀せざるを得ざるのみならず邦家の為め大に慶賀せざるを得ないのであります独り然るのみならず我我後進の者に取りましては諸先輩の活動を見まして我等も他日驥尾に附して行き度いものであると歎喜勇躍の情を禁することか出来ませぬ尚ほ本大学は諸先輩の尽力に因り既に「基礎成れり」といふことに相成つたことは皆様御承知の通りて我我学生は此善備なる設備の下に教養され日日欣然として通学して居るのでありますか之と時を同しうして諸先生諸先輩か頭要の名譽を荷はれたことは我等若し千歳の寿を保つとしても本日の祝賀会より更により多く記念すべき事柄は再ひ之を繰り返すことを得ないと確信致します仰て天際を窺へは紫雲の綻ひから今は故人と為られた菊池、岡村、奥田の諸先生には満面笑を湛へて本日の会を喜はれて居らるる様感せられるのであります本日茲に學員会の後に附して我学友会も相共に祝賀会を開きましたに付て学生一同に代

り聊か撫辞<sup>(撫)</sup>を述へて衷心より來賓各位に祝賀の微意を表明致します次第で御座います」と其終るや花井博士学員会を代表して登壇祝辞を述べらる其大意は「今日新に選に当りました衆議院議員諸君、新に法学博士の学位を受けられました諸氏を招待致し學員学生相合して祝賀会を開くことを吾吾は欣幸とする者であります政治上、学問上の關係に於て国家に貢献するは一であつて之に伴ふ名誉も亦同一であります今学問界に五名の博士、政治界に三十九名の代議士を出したことは独り中央大学の榮譽たるのみならず国家の爲めに慶賀に堪えぬところであります而して名誉のあるところ光榮のあるところに責任が存するのでありますから諸氏は今後益々必ず学問界に、政治界に貢献せらるることと信じて疑はないところであります私は諸氏の今日担へる名誉と光榮とを祝し併せてそれに伴ふ責任を果たされんことを希望する者であります之を以つて祝辞と致します」といふに在り次で学長岡野博士は次の祝辞を朗読せらる「本日我中央大学学員会、学友会合同祝賀会を開きて此盛觀を見るは予の深く欣幸とする所なり此祝賀会は新に法学博士たり衆議院議員たる講師学員諸君を招待して相慶賀せむと欲するものなり願ふに我中央大学學員中去年四月法学博士の学位を授与せられたるもの五人、去る五月衆議院議員総選挙に依りて新に衆議院議員たるもの三十九人の多きを算するを得たるは本大学にありて無前の盛事と謂はざるへからず我中央大学は創立以來理事者學員同心協力其事に當ること此に年あり其本大学卒業者にして學位を得若くは帝國議會に議員たる者の漸次増加し来るは即ち其

功の空しからざることを証するに足る然りと雖も我前途は洋洋たり先進後進共に扶掖磨勵して相彊めて息ますんは庶幾くは本大学の企図を達するを得んか此に學員学生諸君と共に法学博士衆議院議員諸君の頸榮を祝すること斯の如し」右終るや急激の如き拍手に迎へられ林博士登壇して挨拶せらる其辭に曰く「諸先生、學員並に学友諸君、私は御招待を受けたものの中学位を受けた五人を代表して挨拶を述べらるの光榮を有します吾人の學位を受けしことに付き斯る盛大なる祝賀会を開かれましたことは此上もない光榮でございまして深く感謝致し謹て好意を謝すると共に我中央大学の益々隆盛ならむことを希望致します代表者としての御挨拶はこれまでなれと次に私一個として諸先生並に先輩に謝意を表さなければなりません私は本学に法律学を学ひそれより研究科に於て研究し其後講師として本学の講壇に立つて今日に及びました畢竟私の法律的知識は我中央大学に歸するのであります此度浅学の身を以て學位を得るに至つたことは一に中央大学の諸先生並に諸先輩の御指導と御援助とに依る所でありまして感激の至りに堪えぬ次第であります爾来一層研学に従事し今日の榮譽を傷けず我中央大学の声誉と諸先輩の同情とを傷けぬ様致す考であります謹て御礼を申し上げます」次に木下代議士の代表者としての挨拶並に濱田代議士の挨拶あり二氏の雄弁は盛に満堂の拍手と快哉とを促し最後に野村代議士登壇「只今先輩の木下、濱田の両氏は本日の御礼を申し併せて政党内幕を討論の形に於て申上げましたかそれか御礼と為るかどうかは別りませぬ私は一言御礼を申述べたいと存します我

中央大学は元と英吉利法律学校と称し穩健著実なる思想の上に知識を磨く学校であります現今活社会に立たんとすれば必ず法制の知識かなければなりません我中央大学は日本に於て最も適切なるものであることと信じます学長は三十九名の代議士を出し猶年増加の傾向ありと申されましたか是は三十九代議士の力に依るのではなく偏に本学の指導宜しきを得たことと故奥田博士、菊池博士其他諸先生、諸先輩の賜であると信する者であります今日担ひたる榮譽に対し其責任を果さんとするは吾人の常に心掛くべきことと尚ほ母校の名誉をも辱かしめない様留意しつゝあるの御座います偕て近頃数年間或る問題に付いて帝國議會で論議される有様を見て居りますとこれは中央大学の議會ではあるまいかといふ様な感か致しました則ち議會に於て雌雄を争ふて居る勇將は孰れも同じ母校に哺まれた人士であつた者か多いのであります其他本学は法學界は勿論文學界に、財界に幾多人材を輩出して居るのであります以上より觀察して中央大学は他より勝れて居る様に思はれます今や本学は壹万以上の卒業生を出して居ることと御座います猶時勢の進歩に従て多益益々人材を養成しなければなりません本日は恩返しもせぬ中に馳走になるは失礼であるけれ共謹て頂戴致し御礼に代へて一言致します』と挨拶せらる―以上を以て式を終へ学生諸氏には茶菓壽司等の、又来賓並に學員諸氏には新講堂三階に於て饗応ありたるか「デザート、コース」に入り數番の演説あり談笑湧くか如し然るに大講堂に於ては再ひ余興を開始して落語難問即答（雲野正造君）、追分節（佐々木春陽君）等学生諸氏の隠

芸出てたる後金剛山觀世磨の浪花節前原伊助は其音調の朗かると同時に愛嬌溢れ拍手声裡に演了し尚ほ「ハーモニカ」「カールメン」「マンドリン」部富田君、「ビューティフル、リバー」（渡邊幸吉君）ありたる後今様本曲国神連奏（小出君佐々木君）の尺八合奏、「ホーコン」（「マンドリン」部富田君志村君）等を演す孰も堂に入つて面白く其和氣霽霽の裡に各自十二分の歡を尽して散会したるは午後八時を過く因に当日出席ありたるは來賓法學博士飯島喬平、馬場鏝一、林頼三郎、堀江專一郎諸氏並に衆議院議員飯塚春太郎、濱田國松、小野重行、金田平兵衛、高柳覺太郎、中山佐市、野村嘉六、藤井啓一、麓純義、佐野正雄、坂上貞信、木下謙次郎、砂田重政の諸氏及び主人側として中央大學學員井上勝好、石山彌平、石井清、生貝隆、稻澤庄次、池田信治郎、一色信一、犬養駒太郎、岩井磯次郎、井上武八、石井三郎、岩永啓、花井卓藏、花本福次郎、春木一郎、秦桓、橋本良平、葉山萬次郎、馬場愿治、原田武一、西川太重郎、新津米造、新田法教、堀竹雄、細田謙藏、保坂榮之丞、細川祐平、穗積陳重、豊島良昌、戸倉惣太郎、外山福男、岡崎壽市、小山殘平、大西光治、大内省三郎、小倉徳太郎、奥田剛郎、小倉益一、小山哲四郎、岡田藤吾、太田徳太郎、岡野敬次郎、大脇範、及川故作、大松直重、粕川保三、河野秀男、加藤兵衛、加藤龍門、川井金一郎、加藤右二、片山毅、神田常吉、龜山要、加瀬禧逸、吉村長次郎、横山親造、吉田輝一、吉田久、吉澤喜作、高木三郎、多田慶次郎、高橋靜一、竹内律三、瀧村斐男、武田明、高野金重、谷村唯一、田島清太、辻本友次郎、根本仙三郎、

並木關次郎、中田正治、長島毅、中村武、中川信行、村上恭一、  
宇都宮七五、卜部喜太郎、梅原喜太郎、宇田尚、野村永助、野  
口源伍、野島勝七、久保田純一、熊倉英四郎、窪田哲次郎、窪  
田關太郎、黑崎定三、久保義郎、工藤武重、山縣直道、山田三  
郎、柳川勝二、矢淵義太郎、前田顯一郎、松代六郎、増子懷永、  
松元泰助、丸毛重典、丸山熊八、松岡一衛、藤川卓郎、深田鶴  
松、福田市太郎、藤谷久六、小島藤一郎、小山初治、後藤傳兵  
衛、小島愛二郎、海老原重、江端久嘉、手塚光貴、手代木隆吉、  
寺田四郎、阿部文二郎、天野徳也、新情二、東兵右衛門、阿多  
俊介、新井要太郎、朝比奈孝一、佐藤止之、佐藤三吾、澤田宏、  
齋藤又郎、澤田竹治郎、三宮亦男、木村兼孝、金秉愚、岸本源  
三、木付綱麿、君塚春吉、三宅碩夫、宮澤武七、宮部準次、三  
浦惠一、三浦義道、三宅高時、三根谷實藏、宮崎三郎、鹽谷恒  
太郎、鹽崎重太郎、白瀬潤次郎、白尾清次、重信喜太郎、城谷  
一誠、柴田廣吉、日永悌三、樋口兵次郎、平松市藏、樋口朝次  
郎、東讓三郎、泉二新熊、持田諛、毛利文質、森元貞純、背戸  
太郎、瀬下清通、善甫良一、杉程次郎、杉本善次郎、杉村廣太  
郎、鈴木庄助、菅原宗公、鈴木邦恭等の諸氏なり